

キャンプ指導者のための 倫理ガイドライン



公益社団法人日本キャンプ協会
NCAJ National Camping Association of Japan



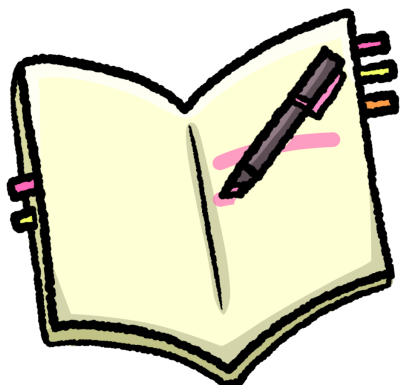
the 2nd ステージ
社会の隅々までキャンプを届けよう

公益社団法人日本キャンプ協会 ビジョン2025



目 次

1. はじめに	2
2. キャンプ指導者の心得	
2-1. キャンプ指導者とキャンパーの関係	3
2-2. 活動の舞台となる自然環境への配慮	4
2-3. キャンプと現代社会	5
3. 倫理的な問題への対応	
3-1. 指導者の影響力	6
3-2. 倫理的な問題を生じさせ得る構造的要因	7
3-3. アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み/偏見）	8
3-4. プロフェッショナル・バウンダリーを育む	9
4. おわりに	10
5. 引用参考文献・資料	11
6. 関連資料	12



1. はじめに

2021年9月、公益社団法人日本キャンプ協会は中期事業計画「ビジョン2025」を公表しました。これは2016年に日本キャンプ協会設立50周年の節目に策定された中期事業計画「ビジョン2020」を引き継ぐものです。

ビジョン2025のテーマは「Camping for All 社会の隅々までキャンプを届けよう the 2ndステージ」であり、目標として「**多くの人々が豊かな自然や身近な日常で、多種多様なキャンプを安全に、楽しく行うことができる状況をつくり出す**」ことを掲げました。

誰もが安全に楽しくキャンプができるよう、**社会の隅々までキャンプを届ける**ためにはキャンプの実践を支援する人や組織を整備する必要があります。特に案内人（ガイド）を務めるキャンプ指導者は、**キャンプで人と人、人と自然、人と社会をつなぐ**役割を担うキーパーソンであるといえるでしょう。

日本キャンプ協会の使命は「野外活動としてのキャンプの普及と振興を図り、国民の心身の健全な発達に寄与する」（協会定款第3条）ことにあります。このガイドラインが、キャンプ指導者をはじめキャンプに関わる多くの方々に理解され、安全で楽しいキャンプの普及と振興につながることを期待します。



2. キャンプ指導者の心得

2-1. キャンプ指導者とキャンパーの関係

キャンプ指導者がキャンパー（キャンプ参加者）に対して指導的な立場に身を置くことによって、キャンパーに対して「優位」であると感じることがあるかもしれません。このような感覚が生じる可能性について、指導者自身が自覚していることはとても重要です。

キャンパーの経験が浅かったり、指導者の経験が豊富でキャンプスキル等のレベルが高かったりする場合は更にその傾向は強くなり、同時に指導者に対するキャンパーの依存度も高くなる場合があります。

キャンプ指導者がキャンパーを自立した個人として受け入れ、個々の権利や尊厳、人格を尊重して接することによって、キャンパーが指導者を信頼し尊敬できるような、お互いを尊重し合える関係を築いていくことが大切です。

「セーフ・フロム・ハーム」ガイドライン（※一部抜粋）

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

- ・ **すべての人の尊厳を尊重する。**

個々の人間は、多様な存在として尊重されなければなりません。スカウト活動に関わる人だけではなく、すべての人の尊厳を尊重することが求められます。

- ・ **すべての成人・青少年を平等に扱う。**

人種、信条、性別、社会的身分、生まれ育ちなどによって差別してはなりません。ただし、それぞれが性別、能力、年齢、財産、職業などにおいて違いがあることを前提に、合理的な理由がある場合については違った取り扱い（必要に応じた支援など）を認めなければなりません。

- ・ **相手の嫌がることは、自分が善意のつもりであっても行わない。**

相手にとって嫌なことを知るのは大変難しいことです。自分では善意だと思っていたらなおさらです。まず相手を観察し、尊厳を尊重することが大切です。そうすることによってお互いがお互いを大切にするということにより相手を傷つけるような事態は避けられるはずです。

- ・ **すべての人に対し、脅威を与えたり脅威を感じさせたりする言葉を遣わない。**

どのような悩みにも親身になって相談にのり、対応しましょう。普段何気なく使用している言葉も、相手にとっては脅威を与えたり感じさせたりする言葉かもしれません。過度に慎重になる必要はありませんが、今一度自分の言葉遣いに注意しましょう。相談にのり対応するときには、個人の尊厳を傷つけないよう十分に注意することが求められます。

2-2. 活動の舞台となる自然環境への配慮

自然環境を利用して行われるキャンプは、多かれ少なかれ自然環境に負荷を与えることになります。その負荷をできるだけ小さなものにするように配慮することが求められます。いわゆる「ミニマム・インパクト」（自然環境に与える負荷を最小限にする）の考え方は、私たちの次の世代も豊かな自然の中でキャンプを楽しむことができるよう、キャンプ指導者は自覚と責任を持って行動する必要があります。

アウトドア活動をする9割の人は、 自然へのダメージを認識していません。

(Leave No Trace Japan ホームページより)

変えよう、未来の子どもたちのために。

Leave No Trace（リーブノートレイス）とは、環境に与えるインパクトを最小限にしてアウトドアを楽しむための環境倫理プログラムです。すべてのテクニックが7つの原則を基にしており、誰にでもわかりやすく、楽しく実践することができます。世界96カ国のアウトドアレクリエーションにおける行動基準となっています。

原則1：事前の計画と準備（Plan ahead and prepare）

原則2：影響の少ない場所での活動（Travel and camp on durable surfaces）

原則3：ゴミの適切な処理（Dispose of waste properly）

原則4：見たものはそのままに（Leave what you find）

原則5：最小限のたき火の影響（Minimize campfire impacts）

原則6：野生動物の尊重（Respect wildlife）

原則7：他のビジターへの配慮（Be considerate of other visitors）

2-3. キャンプと現代社会

コロナ禍で「新たな生活様式」が動き出したことにより、新たなキャンプブームが生まれました。キャンプ指導者はこのような社会状況の変化を踏まえ、キャンプに期待されていることを再考し、その価値を高めていくことが大切です。そのためにはキャンプに関する様々な情報に関心を持ち、学び続けていく必要があります。

現代社会は日々変化しています。このような変化はキャンプの指導のあり方についても対応を求めるものです。2016年から本格的に始動したSDGs（持続可能な開発目標）への対応もそのひとつです。SDGsが示す17の目標は、これまでキャンプで大切にしてきたことと連動する部分も多くありますが、改めてキャンプにできることを問い直し、2030年に向けてSDGsの理念に添ったキャンプを展開していきましょう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



3. 倫理的な問題への対応

3-1. 指導者の影響力

キャンプ指導者はキャンパーに対して影響力を持っています。キャンプ指導者の倫理観や言動はキャンパーの考え方や言動、そしてキャンプに対する価値観にも影響を与えることになります。

キャンプ指導者はキャンプ中だけでなく、それ以外の場面でも倫理的に振る舞うことが求められます。そのためキャンプ指導者は自身の倫理観や言動について折りに触れて内省することが大切です。

- ☒ キャンプ指導者はキャンパーに対してある種の権力を持っていることを自覚する。
- ☒ キャンプ指導者はこのような権力を背景とする反倫理的な言動が生じる可能性があることを自覚する。
- ☒ キャンプ指導者の反倫理的な言動が、キャンパーの人権を侵害することを自覚する。

キャンプ指導者は指導に関する知識や技術を習得するだけでなく、倫理に関する情報を収集することによって、反倫理的な言動とはどのようなものかについて理解を深めていく必要があります。その上で以下の項目について確固たる意志を持って行動し、適切に対処しなければなりません。

- ☒ 身体的・精神的暴力、言葉の暴力、ハラスメントをしない、許さない。
- ☒ 年齢、性別、性的指向や性自認、障がいの有無、国籍、文化、言語、民族、人種、宗教等の特徴を理由とする、いかなる差別的な言動もしない、許さない。
- ☒ 反倫理的な言動の黙認や隠ぺいをせず、速やかに適切に対処する。

キャンプにおける反倫理的な言動は被害者、加害者をつくるだけでなく、キャンプの組織運営にも悪影響を及ぼすことになります。安全で楽しいキャンプを実現するためにも、反倫理的な言動の防止に注力することがキャンプ指導者の責務であることを肝に銘じ、実動することが重要です。



3-2. 倫理的な問題を生じさせ得る構造的要因

キャンプが行われる環境は日常生活と異なることもあり、倫理的な問題を生じさせ得る構造的な要因が潜在しています。その要因として次のようなものが挙げられます。

- ・キャンプ指導者とキャンパー間の上下（権力）関係
- ・キャンパー間の上下（権力）関係
- ・キャンプ指導者間の上下（権力）関係
- ・集団主義 閉鎖性 など

キャンプの場面で倫理的な問題が生じて、被害者がそれを明確に拒否する意思表示ができないことがあります。何が起こったのか理解ができない、言い出しにくい、恥ずかしい、キャンプが終わるまで我慢すればいい等々、理由は様々です。ただし明確な意思表示がないからといって被害者がそれを受け入れている、ということではないのです。

被害者が受けた反倫理的な言動について意思表示をためらってしまう状況は、その被害が認識されることを困難にさせます。また、認識されたとしてもそうした問題が組織内で隠ぺいされる可能性もあります。

倫理的な問題が生じた場合、被害者の立場を考慮しつつ速やかに対処する必要があります。また、現状に問題がないとしても反倫理的な言動を生じさせる要因を監視し、先行的に対応することが重要です。

倫理的な問題は、キャンプ指導者とキャンパーの間でだけではなく、キャンプにおけるあらゆる人間関係において生じる可能性があります。キャンプ指導者はそれを心に留め、自身が関わる現場やその他の様々な場面において反倫理的な言動を防止するための対策を立てておくことが重要です。

子どもキャンプの性被害

- グルーミング（性的な目的のために優しく接し、信頼関係を築く行為）手法による犯罪 -

大手旅行会社主催の「泊まりがけキャンプ」に参加した男子児童が、ボランティアスタッフのリーダーとして子どもの世話役を担っていた20代の男から性被害を受けた。男児は「一番思い出に残っている。最悪の思い出。一番嫌な思い出。今まで誰にも言えなかった」と、たった1人でその苦しみを抱え、やっとの思いで母親に打ち明けた。

<https://www.youtube.com/watch?v=YHf0-wsZjuo>

児童・生徒から相談があった際に伝えてはいけない言葉

- 児童・生徒を責めている（と受け取られかねない）言葉：
「泣いてばかりいないでちゃんと説明して」と伝えてはならない。
- 被害を矮小化するなど、児童・生徒の心理を理解しない言葉：
「早く元気になりましょう」「辛いことは忘れましょう」と伝えてはならない。
「辛いのはよく分かるよ」「時間が解決してくれる」と伝えてはならない。 など。

※東京都教育委員会「教職員等による児童生徒性暴力等が発生した場合の初動対応」より一部抜粋。

3-3. アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み/偏見）

今日「インクルーシブ（包括的）」「ダイバーシティ（多様性）」という考え方に関心が集まっています。キャンプにおいてもその重要性が認識されるようになりましたが、その実現を阻む要因のひとつとして挙げられるのがアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み/偏見）です。

アンコンシャス・バイアスは、過去の経験や見聞の影響を受けて形成されるものであり、脳がストレスを回避するために無意識のうちに自身に都合のよい解釈をすることによって生じると考えられています。このような自己防衛に起因する思い込みは誰にでもあるものですが、無意識であるが故に気づきにくく、よかれと思ってしたことが裏目に出たり、相手を傷つけてしまうこともあります。

キャンプでもアンコンシャス・バイアスが生じる可能性があります。それを看過すればハラスメントに進展するなど、倫理的な問題を引き起こすことになります。その対処法のポイントは、気づこうとすること、決めつけないことです。自身の中にある「キャンパーは〇〇であるべき」「キャンプ指導は〇〇であるべき」といった思い込みや決めつけに気づき、意識化すること、それを他者と語り合うことによって改善を図ることが重要です。



薪割りは男子、調理は女子 って決まってるの？



指導者は何を大切にする？（子どもたちはどう思ってる？）

3-4. プロフェッショナル・バウンダリーを育む

プロフェッショナル・バウンダリー（professional boundary）とは、専門的な役割を担う人とそのケアを受ける人との関係における境界線（距離感）のことです。マリリン・ピーターソンはバウンダリーを「クライアントのニーズに基づいて安全な関係を築くための境界」と定義しています。

キャンプ指導者とキャンパーの関係においてもこのプロフェッショナル・バウンダリーは重要であると考えられます。キャンプ指導者はプロフェッショナルな存在としてキャンパーと適切な境界線（距離感）を保ち、相互信頼を維持していく必要があります。

プロフェッショナル・バウンダリーを育む方法

1. **自分の役割と責任を理解する**：自分の役割と責任を明確に理解することが重要です。これには、自分の権限の限界だけでなく、職務上の行動において何が期待されているかを理解することも含まれます。
2. **明確なコミュニケーション**：効果的なコミュニケーションは、プロフェッショナル・バウンダリーを設定し、維持するための鍵となります。自身の限界、期待されていることを明確にし、スタッフに効果的に伝えましょう。
3. **確固たる個人の価値観を育む**：確固たる個人の価値観と倫理原則を育むことは、職務における意思決定の指針となります。自分が何を支持しているかを明確に理解することで、困難な状況でも倫理的かつ有益な選択を行うことができます。
4. **他者の境界線を尊重する**：自分の境界線を確立することが重要であるのと同様に、他者の境界線を尊重することも同様に重要です。これは他者の個人的な空間、時間、プライバシーに配慮し、押し付けがましい、または不適切とみなされる可能性のある行動を避けることを意味します。
5. **サポートとガイダンスを求める**：プロフェッショナル・バウンダリーを設定したり維持したりするのが困難な場合は、スタッフ、または専門家からサポートとガイダンスを求めることが重要です。これらの人は貴重なフィードバックを提供し、健全で適切な人間関係を築くための戦略を立てるのに役立ちます。

プロフェッショナル・バウンダリーを育むことによって、キャンプ指導者とキャンパーの関係を適切かつ良好なものにすることができます。それはキャンパーとキャンプ指導者を倫理的な問題から守ることにもなるのです。

4. おわりに

この倫理ガイドラインは、キャンプ指導者の言動を制約するためではなく、キャンパーズ・ファーストの理念に基づいて、キャンプにおける「人と人、人と自然、人と社会」の適切かつ良好な関係の構築に資することを意図して作成されたものです。また、キャンプ指導者だけでなく、この冊子を手にしたすべての方々にガイドラインの目的、内容等をご理解いただき、それぞれの活動場面にフィードバックしていただければ幸いです。

キャンプにおける倫理的な問題は、キャンプ指導者だけがその責務を果たすのではなくキャンプ関係者が一丸となって取り組んでいくという認識が求められます。日本キャンプ協会は都道府県キャンプ協会をはじめとする加盟団体、関連団体と連携し、今後もその取り組みを継続していきます。

（キャンプ）カウンセラーがキャンパーに対して期待と信頼感を持って接すればそのグループは成長していきますし、逆の態度で接すればそのグループはマイナス方向へと進むことになるでしょう。

カウンセラーの中に「これまでキャンパーに恵まれてきました」という人がいます。私はそういうカウンセラーに対しては「キャンパーの方がそういう（態度で接してくれる）カウンセラーに恵まれたのだ」と言ってあげます。キャンパー一人ひとりの成長を信じ、期待を持って接していくことが大切であると思います。

アメリカキャンプ協会副会長 ジャック・ピアス

第2回全国レクリエーション大会 京都大会
キャンプ部門特別講演「キャンプの将来」要約より。
（日本キャンプ協会『キャンピング』第30号, 1990年）

5. 引用参考文献・資料

- 公益社団法人日本キャンプ協会 ビジョン推進委員会, 中期事業計画「ビジョン2025」-社会の隅々までキャンプを届けよう-第2ステージ, 2021年.
https://camping.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/12/vision2025_booklet.pdf
- 公益財団法人日本スポーツ協会 指導者育成委員会, スポーツ指導者のための倫理ガイドライン, 2022年.
https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/20220620_スポーツ指導者のための倫理ガイドライン_.pdf
- 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会, セーフ・フロム・ハーム ガイドブック, 2017年.
https://file1.scout.or.jp/wp-content/uploads/2023/12/12120307/Safe_from_harm_Guidebook.pdf
- Leave No Trace Japan, LNT7原則.
<https://lntj.jp/lnt7principle/>
- 公益財団法人日本ユニセフ協会, SDGsって何だろう? .
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/about/>
- 東京都教育委員会「教職員等による児童生徒性暴力等が発生した場合の初動対応」令和5年4月.
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/1-2_3
- 守屋智敬, 「アンコンシャス・バイアス」マネジメント 最高のリーダーは自分を信じない, (株)かんき出版, 2019年.
- THE PROFESSIONAL BOUNDARIES COMPANY, What are Professional Boundaries?/How are Professional Boundaries defined?
<https://professionalboundaries.org.uk/faq/>
- Harishankar Ethiraj, 5 ways to cultivate Professional Boundary. Why is it Important?
<https://www.linkedin.com/pulse/5-ways-cultivate-professional-boundary-why-important-ethirajj>



6. 関連資料

- キャンプ活動・野外活動等における、全ての子どもの人権尊重について（緊急声明）
「キャンプ事業における引率指導者のわいせつ事案」での地方裁判の判決を受けて、
公益社団法人日本キャンプ協会webページ，2023年.

https://camping.or.jp/news_release/news/28021.html



- 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン，子どものセーフガーディング指針
～子どもにとって安心・安全な組織・事業づくり～（ガイドライン），2021年.

https://www.savechildren.or.jp/about_sc/pdf/childsafeguarding_policy.pdf



- 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（訳），キープ・チルドレン・セーフ
子どものセーフガーディング国際基準の実現をめざして 子どものセーフガーディングに
関する申し立ての管理と対応，2021年.

https://www.savechildren.or.jp/about_sc/pdf/

[KCS_GUIDANCE_ManagementCSAllegations_JPN-2016_2020.pdf](https://www.savechildren.or.jp/about_sc/pdf/KCS_GUIDANCE_ManagementCSAllegations_JPN-2016_2020.pdf)



- 和田照子，こどもの大綱策定にむけてガールスカウトからの提言（こどもまんなか
フォーラム発表資料），公益社団法人ガールスカウト日本連盟，2023年.

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo_mannaka_forum/pdf/dai6/siryou6.pdf



- すべてのこども・おとなに知ってほしい こども基本法とは？，
こども基本法パンフレット，こども家庭庁webページ.

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/

[field_ref_resources/40f97dfb-ff13-4434-9ffc-3f4af6ab31d5/2bdb80fa/](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/40f97dfb-ff13-4434-9ffc-3f4af6ab31d5/2bdb80fa/)

[20230401policies-kodomokihon-01.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/40f97dfb-ff13-4434-9ffc-3f4af6ab31d5/2bdb80fa/20230401policies-kodomokihon-01.pdf)



- 子どもの権利条約，公益財団法人 日本ユニセフ協会webページ.

<https://www.unicef.or.jp/crc/>



- 山縣文治(監)，保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェック
リスト ～「子どもを尊重する保育」のために～，全国保育士会，2018年.

https://z-hoikushikai.com/download.php?new_arrival_document_id=123



- 教育・保育等を提供する事業者による児童対象性暴力等の防止等の取組を横断的に
促進するための指針（横断指針），こども家庭庁，2025年.

<https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety/efforts/koseibouhou/odanshishin>



キャンプ指導者のための倫理ガイドライン

発行日 2025年5月30日 初版 第1刷

発 行 公益社団法人 日本キャンプ協会
安全対策委員会

<https://camping.or.jp/>



NCAJ

National Camping Association of Japan